

はじめに

憲法を学ぶための本はたくさんある。そうしたなかで、あえてこの本を出版するのは、この本が他の憲法の本にはない「一風変わった」特徴をもっているからである。

その特徴とは、憲法を、それが置かれた歴史的・社会状況に照らして学ぶというアプローチである。この本を手にとられる多くの方は、すでに学校教育のなかで、憲法についてある程度学んだことであろう。しかし、そこでの憲法の学びかたは、憲法の条文や重要事項の暗記に重点が置かれていたのではなかろうか。われわれはこうした条文中心・暗記中心の教育は、単につまらないだけでなく、憲法の理解という点でも重大な問題を抱えていると考えている（「条文中心教育」の問題点については、本書3参照）。この本は、憲法についてのこれまでの教育がおきざりにしてきた、一つひとつの条文の背後にある歴史的事実、社会的現実について、できるだけ具体的資料に基づいて解説している。無味乾燥のように思われる条文も、歴史や現実のなかに置くことで、その本当の意味が明らかになるはずである。

この本は、単に憲法のお勉強のためのものではない。この本は、随所に、日本国憲法の理念を生かすために長く困難な裁判や運動にとり組んだ人々の姿をおさめている。これらの人々の経験を学びつつ、すべての人が自由、平等で豊かに、そして平和に暮らすために、日本国憲法の保障する権利や制度がどのように役立つのかを考え、実践に活かしてほしいとの思いを込めている。憲法についてはなしとえば、人々の生活とはかかわりのない、どちらかといえば敬遠したい、「難しい」ものと思われがちである。この本が、自らをとりまく日本の現実の問題と憲法とが深く結びついていることを理解するきっかけとなり、友人、家族との間での議論の素材となることを祈っている。

以上のような、この本の「一風変わった」特徴は、播磨信義の長年の憲法教育の取り組みに基づくものであり、播磨と木下智史による『どうなっている!? 日本国憲法』初版（1990年）以来のものである。その播磨が2002年8月、不慮の事故で亡くなった。この本の発案者を失い、一時は絶版にすることも考えた。しかし、全国の少くない教育現場でこの本が活用されていることを知り、残された編著者に、新たに上脇博之を加えて、版を改めることとした。播磨執筆部分も含めて全体の本文・資料も見直し、できるだけアップ・トゥ・デートな内容となるよう努めた。

今回も、この「一風変わった」教科書の出版のために、法律文化社社長・秋山泰さん、同社製作部・野田三納子さんにはたいへん苦勞をかけた。記して謝意を表したい。

この第2版を亡き播磨信義に捧げる。

2009年2月

編著者一同